

氏名	三輪 恭子		
学位の種類	博士（看護学）		
学位授与年月日	令和5年3月31日		
学位論文名	<b>地域ケアにおける看護職によるコミュニティ・エンパワメントの 過程とコンピテンシー</b> Community empowerment processes and competencies of nurses in community-based care		
論文審査委員	主査	教授	白井 みどり
	副査	教授	山口 曜子
	副査	教授	玉上 麻美

### 論文内容の要旨

目的：地域ケアにおける看護職によるコミュニティ・エンパワメント（以下、CE）の過程とコンピテンシーを明らかにする。

方法：地域の相談窓口等で1年以上CEにむけて活動している看護職16名に半構造化面接を3回実施した。逐語録からCEにおける経験・行動およびコンピテンシーについて語られたフレーズを抽出・切片化しラベルをつけ、時系列に整理した。CEの過程は複線径路等至性モデリング（TEM）を用いて分析し、対象者ごとのTEM図を作成した後、すべての対象者のTEM図を統合した。CEにおけるコンピテンシーを活動の段階ごとに抽出し、分析した。

結果：CEの過程は、コミュニティケアの志向期、創出期、定着期の3期に区分され、【動機づけ】【活動準備】【ニーズ把握】【仲間づくり】【試行錯誤】【協働促進】【活動維持】の7段階を経て、等至点である「住民のポジティブヘルスが実現する」状態に至っていた。各段階のコンピテンシーには、「暮らしに着眼した課題発見力」「新しい看護活動にむけた行動力」「多様な価値観への共感力」「対話を重視した人間関係構築力」「社会資源創出に挑む遂行力」「住民の主体性を尊重したケア調整力」「事業継続にむけた管理力」があった。

考察：CEの過程の特徴として、志向期では行政保健師とは異なる視点で健康課題を発見し地域活動を生み出す可能性、創出期では住民や多職種と協働した活動の柔軟性、定着期では活動の脆弱性と評価の困難性が示された。コンピテンシーは、ケア提供者の経験から得た価値観と実践・連携力を基盤に、事業継続にむけた管理力の修得の必要性が示された。

## 論文審査結果の要旨

本研究は日本看護科学会誌第 42 巻に原著論文として掲載されることが決定している。

本研究は、地域で 1 年以上 CE の活動を行っている看護職 16 名を対象に、地域ケアにおける看護職によるコミュニティ・エンパワメント（以下、CE）の過程とコンピテンシーを明らかにしている。近年、保健師以外の看護職による CE が注目されているが、その活動は黎明期にあるため先行研究は殆どない。本研究は、地域ケアにおける看護職の CE の過程とコンピテンシーを明らかにした国内初の研究であり、新規性・独創性が認められる。データ収集は一般可能性を考慮して多様な活動地域・所属の 16 名を対象に半構成的面接を行い、分析には対象の経験の経路や影響要因を捉える複線径路等至性モデリング(TEM)を用いる等、研究方法は研究テーマと内容に応じて適切に選択している。分析結果は CE の経験や影響する要因を時系列に TEM 図として表すことで志向期、創出期、定着期からなる過程を簡潔明瞭に示し、各期のコンピテンシーを導き出している。また、分析結果の確証性と信用性を確保するため、対象者ごとに 2 回の確認を行うとともに、TEM 研究者等による検証を行っている。本研究の成果は、地域における看護職の社会貢献活動や医療専門職人材の有効活用に資する重要な知見を示し、今後の看護実践や研究に寄与すると期待される。

博士論文報告会では、研究背景から考察に至る一連の研究プロセスを簡潔明瞭に報告し、質疑に対する応答も適切であった。博士論文審査会では、研究方法や結果、学術的意義や研究の限界等を明確に述べていた。

以上により、本論文は博士（看護学）の学位を授与するに値するものと認められる。